

Hisense[®]

液晶テレビ

取扱説明書

32E30K 40E30K

★ インターネットへの接続をおすすめします

インターネットに接続すると、快適にご利用いただくための最新ソフトウェアへの更新など、より便利にそして快適に本機をご利用いただけます。

お買い上げいただきましてありがとうございます。

**この取扱説明書をよくお読みの上、
正しくお使いください。**

特に「安全上のご注意（注 3 ~ 7 ページ）は、ご使用前に必ずお読みいただき、安全にお使いください。お読みになった後は、保証書とともにいつでも見ることができる場所に保管してください。



商品に関する
サポートページ

はじめに

- 本書は本機の設置・接続と基本的な操作について説明しています。
- 本機の詳しい操作については、ハイセンス取扱説明書ダウンロードページ内の取扱説明書・機能操作ガイドをご確認ください。
- ※ 記載の URL 及び QR コードで本取扱説明書が表示されない場合は、「ハイセンスジャパン TV」とブラウザ上で検索をしてハイセンス公式ホームページより、所定の TV 型番号にて取扱説明書を検索してください。
- ハイセンス取扱説明書ダウンロードページ
<https://www.hisense.co.jp/tv/e30k/assets/pdf/manual.pdf>





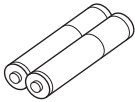
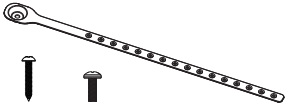


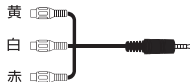
※ 上記のアドレスは予告なく変更される場合があります。

最初に確認してください

付属品を確認する

- 本機には以下の付属品があります。お確かめください。
- アンテナや外部機器などに接続するためのケーブルやコード、器具・機器などは付属しておりません。機器の配置や端子の形状、使用環境などに合わせて適切な市販品を別途お買い求めください。

() は個数です。

取扱説明書 (1)	保証書 (1)	miniB-CAS カード (レッドカード) (1) 
赤外線リモコン (EN3E40H) (1) 	単四形乾電池 (2) (リモコン用) 	転倒防止ベルト (1 式)  <p>(ねじ)</p>  <p>ST4 × 25 M6 × 12</p>
スタンド (1 式)  <p>ねじ</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 32E30K : ねじ (M4 × 12mm) × 4 個 ■ 40E30K : ねじ (M4 × 16mm) × 4 個 	ビデオ入力用変換アダプター (AV ケーブル接続用) (1)  <p>黄 白 赤</p>	

※ 付属品紛失の際は弊社部品をお求めください。なお、保証書は再発行できません。

目次

安全上のご注意 3

使用上のご注意・お手入れについて 8

機器の準備・接続をする

各部の名前 10

本体操作部 10

本体接続部 11

リモコン 12

リモコンについて 14

デジタル放送について 15

デジタル放送の特徴 15

本機で視聴可能なデジタル放送の種類 .. 16

デジタル放送を視聴するための準備 16

設置のしかた 17

設置の手順 17

スタンドを取り付ける 18

miniB-CAS カードを入れる 19

アンテナの接続 20

UHF アンテナを接続する 20

BS・110度CS 共用アンテナを接続する .. 21

マンションなどの共聴システムで接続する .. 21

LAN への接続 22

有線 LAN で接続する 22

電源コードの接続 23

接続する 23

電源に関するご注意 23

他の機器との接続 24

USB ハードディスクを接続する 24

ヘッドホンやアナログ音声入力端子付のオ

ーディオ機器を接続する 25

DVD プレーヤーなどを接続する 26

HDMI 出力のある機器に接続する 27

光デジタルケーブルで AV アンプなどを接

続する 29

HDMI 連動 (CEC) 対応機器と接続する 29

テレビを使う

「はじめての設定」をする 30

文字の入力のしかた 31

その他の情報

故障かな？と思ったら 32

お問い合わせの前に 32

ライセンスおよび商標などについて 32

本機で使われるソフトウェアのライセンス情報 .. 33

データ放送用メモリーの割当画面が表示されたら .. 34

主な仕様 35

保証とアフターサービス 39

説明のしかたについて

△ご注意

説明文中で、とくにご注意いただきたい点を記載しています。

お知らせ

機能などの補足説明、参考にしていただきたいこと、制限事項などを記載しています。




関連する内容が記載されているページの番号を示しています。


- 本書は、32E30K/40E30K で共用です。本書中のイラストは特に断りのない限り、32E30K のイラストで説明しています。他の機種はイメージが多少異なります。
- 本書のイラスト、画面表示などはイメージであり、実際とは異なる場合があります。

安全上のご注意 必ずお守りください


他の人への危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。


■ 誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を区分して、説明しています。


 **警告** 「死亡や重症を負う恐れがある内容」です。

 **注意** 「軽傷を負うことや、財産の損害が発生するおそれがある内容」です。

■ お守りいただく内容を次の図記号で説明しています。(次は図記号の例です)

 してはいけない内容です。

 していただきたいという記号です。

 気をつけていただく内容です。

警告 (移動、設置)

❗ 正しい方法で運搬 / 移動する

誤った方法で運搬したり移動したりすると、本機が落下し、打撲や骨折をしたり、大けがをすることがあります。運ぶときは、衝撃を与えないようにしてください。落下や破損などにより、大けがの原因となります。特に、画面を押さえたり、強い力が加わるような持ちかたをしないでください。テレビの底面を持つときは、後ろ側から手を回してしっかりと持ってください。修理や引っ越しなどで本機を運ぶ場合は専用の箱やクッション材をご用意したうえ、十分気を付けてお運びください。必ず2人で運搬 / 移動 / 設置をしてください。

- ・ホットカーペットの上に置かない。
- ・布をかけない。

❗ 周囲に間隔を空ける

周囲に間隔を空けずに設置すると、通気孔がふさがって内部に熱がこもり、火災や故障の原因となります。下記以上の間隔を空けて、熱がこもらないように設置してください。

- ・上部 : 30 cm
- ・左右 : 10 cm
- ・下部 : 10 cm (壁掛けの場合)
- ・背面 : 6 cm

❗ 壁に取り付ける場合は、必ず専門の業者に取り付けてもらう

専門業者以外の人に取り付けたり、壁への取り付けが不完全または誤った据え付けかたをすると、本機が落下するなどして、打撲や骨折など大けがの原因となることがあります。

❗ スタンドを正しく取り付け、転倒防止の処置を必ず行う

スタンドは本書にしたがって正しく取り付けてください。また、スタンドや床、壁などの間に、適切な転倒防止の処置を行ってください。転倒防止の処置をしないと、本機が倒れてけがの原因となることがあります。

⊘ 不安定な場所に置かない

ぐらついた台の上や傾いたところなどに置くと、テレビが落下すると、重大なけがや死亡の原因となります。多くのけが、特にお子様のけがは次のような簡単な予防措置を取ることで回避できます。

- ・スタンドは本機に付属のスタンドを付属のネジで本機の本体に固定して使用する。

❗ 運搬 / 移動するときは接続されている線などをすべて外す

本機を運ぶときは、本機に接続されている電源プラグやケーブルなどをすべてはずしてください。電源プラグを差し込んだまま移動させると、電源コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。

❗ 使用・設置場所について

電源コンセントに容易に手が届く場所に置き、何か異常が起こったときは、すぐに電源プラグを抜くようにしてください。暗すぎる部屋は目を疲れさせるのでよくありません。適度の明るさの中でご覧ください。また、連続して長い時間、画面を見ていることも目を疲れさせます。

⊘ 通風孔をふさがない

通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

- ・あお向けや横倒し、逆さまにしない。
- ・棚や押入の中に置かない。

警告 (移動、設置) (つづき)

- ・本機を安全に保持できるテレビ台などの専用の家具を使用する。
- ・本機は設置するテレビ台などの家具の端からはみ出さないように設置する。
- ・背の高い家具 (食器棚や本棚など) の上には本機と家具の両方を頑丈な柱や壁などに確実に固定した場合以外は設置しない。
- ・本機と本機を設置するテレビ台などの家具の間には、布など何も敷かない。
- ・お子様には、本機やリモコンを操作するために本機を設置したテレビ台などの家具によじ登ると危険であることをよく説明して教え、お子様がテレビを設置した家具によじ登らないように注意する。

⊖ 乗り物の中や船舶の中などで使用しない

移動中の振動により、本機が転倒したりして、けがの原因となることがあります。塩水をかぶると、発火や故障の原因となることがあります。

⊖ 湿気やほこり、油煙、湿気が多い場所や、虫の入りやすい場所、直射日光が当たる場所、ホットカーペットの上や熱器具の近くに置かない

火災や感電の原因となることがあります。銭湯や温泉の更衣場などに設置すると、温泉に含まれる硫黄などにより、硫化したり、高い湿度で本機が故障したりすることがあります。

⊖ 本機を医療機器の近くに設置しない

医療機器の誤動作の原因となることがあります。

⊖ 屋外や窓際で使用しない

雨水などにさらされ、火災や感電の原因とな

ることがあります。また、直射日光を受けると、本機が熱を持ち、故障することがあります。海辺や砂地、あるいは砂ぼこりが起こる場所などでは、砂がかからないようにしてください。故障の原因になるばかりか、修理できなくなることがあります。

⊖ 水のある場所に置かない

水が入ったり、ぬれたり、風呂場で使うと、火災や感電の原因となります。雨天や降雪中の窓際でのご使用は特にご注意ください。

⊖ 本機の表面が割れたときは、電源プラグをコンセントから抜くまで本機に触れない

電源プラグをコンセントから抜かず本機に触れると、感電の原因になることがあります。

移動後及び再設置について

テレビを移動して配置したり、接続機器及び周辺の使用環境が変わったりした場合、上記の内容に踏まえてもう一度注意事項をご確認ください。

⊖ 目や口に液晶を入れない / ガラスの破片に触れない

液晶パネルが破損すると、破損した部分から液晶 (液状) が漏れたり、ガラスの破片が飛び散ることがあります。この液晶やガラスの破片に素手で触れたり、口に入れたりしないでください。ガラスの破片に触れるとけがをするおそれがあります。また、漏れた液晶に素手で触れると中毒やかぶれの原因となります。臭いをかぐこともやめてください。誤って目や口に入ったときは、すぐに水で洗い流し、医師にご相談ください。

警告 (電源コード・プラグ)

⊖ コンセントや配線機器の定格を超える使いかたや、交流 100V (50/60Hz) 以外では使用しない

たこ足配線などで定格を超えると、発熱により火災の原因となります。海外などで異なる電源電圧で使用すると、火災や感電の原因となります。

⊖ 電源コードを傷つけたり、加工したり、ねじったり、引っ張ったり、無理に曲げたり、加熱したりしない

電源コードが傷んだら (芯線の露出、断線) 交換をご依頼ください。そのまま使用すると、コードが破損して、火災・感電の原因となります。

安全上のご注意 必ずお守りください(つづき)

警告 (電源コード・プラグ) (つづき)

⊖ 電源コードに重いものを載せたり、本機の下敷きにしたりしない

火災・感電の原因となります。

⊖ ゆるいコンセントに接続しない

電源プラグは、根本までしっかりと差し込んでください。根本まで差し込んででもゆるみがあるコンセントにはつながないでください。発熱して火災の原因となることがあります。電気工事店にコンセントの交換を依頼してください。

⓪ 電源プラグをつなぐのは、他機器との接続が終わってから

コンセントに差したまま他機器と接続すると、感電の原因となることがあります。他機器との接続が終わった後に、電源コードを本機につないでから電源プラグを壁のコンセントに差ししてください。

⓪ 電源プラグは定期的にお手入れを

電源プラグとコンセントの間に、ゴミやほこりがたまって湿気を吸うと、絶縁低下を起こして、火災の原因となります。定期的に電源プラグをコンセントから抜き、ゴミやほこりを取ってください。

⓪ お手入れの際、電源プラグを抜く

電源プラグを差し込んだままお手入れすると、感電の原因となることがあります。

⊖ めれた手で電源プラグにさわらない

めれた手で電源プラグの抜き差しをすると、感電の原因になることがあります。

⊖ 電源コードを引っ張らない

電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。コードに傷が付き、火災や感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。

⊖ 雷が鳴りだしたら、アンテナ線や電源プラグに触れない

感電の原因となります。

⊖ 他の電源コードを本製品に使用したり、付属の電源コードを他の商品に使用しない。

火災・感電・ショートの原因となります。

警告 (使用)

⊖ 本機にぶらさがらない

本機が壁からはずれたり、倒れたりして、本機の下敷きになり、大けがの原因となることがあります。

⓪ 煙やにおい、音などの異常が発生したら、本機の電源を切り、電源プラグを抜く

異常状態のまま使用すると火災・感電の原因となります。修理をお買い上げ店に依頼してください。お客様自身による修理は絶対におやめください。

⊖ 内部に水や異物を入れない 本機の上に熱器具、花瓶など液体が入ったものや火のついたろうそくのような裸火を置かない

内部に水や異物が入ると火災の原因となります。万一、水や異物が入った場合は、すぐに本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、修理をお買い上げ店に依頼してください。

⊖ 分解や改造をしない

内部には電圧の高い部分があり、裏ぶたを開けたり改造したりすると、火災や感電の原因となります。内部の点検や修理はお買い上げ店にご依頼ください。

警告 (電池)

- ⊖ 電池 (電池パックまたは組込電池) は、直射日光や火などの過度の熱にさらさない。電池を火の中に入れてはいけない。分解、加熱、充電したり、ショートさせたりしない

電池の破損・液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

- ❗ 電池はプラスとマイナスの向きに注意し、機器の表示どおり正しく入れる

間違えると電池の破損・液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

- ⊖ 電池を使い切ったときや、長時間使わないときは、電池を取り出す

電池を入れたままにしておくと、過放電により液がもれ、故障・火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

- ⊖ 指定以外の電池を使わない。新しい電池と古い電池または種類の違う電池を混ぜて使わない

電池の破損・液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

注意

- ❗ お手入れのときや、旅行などで長期間ご使用にならないときは、電源プラグを抜く

お手入れのときや、本機を長時間使用しないときは、安全のため、必ず電源プラグを抜いてください。本機は電源スイッチを切ただけでは、完全に電源からは切り離されておらず、常に微弱な電流が流れています。完全に電源から切り離すためには電源プラグをコンセントから抜く必要があります。コンセントは製品の設置場所に一番近く、抜き差ししやすい場所を選んでください。

- ⊖ 電源コードを熱器具に近づけない

電源コードの被覆が溶けて火災・感電の原因となることがあります。

- ❗ 人が通行するような場所に置かない。コード類は正しく配置する

電源コードや信号ケーブルは、足に引っかかると製品の落下や転倒などによりけがの原因となることがあります。人が踏んだり、引っかけたりするような恐れのある場所を避け、充分注意して接続・配置してください。

- ⊖ 風通しの悪いところに入れてはいけない・密閉した箱に入れてはいけない・じゅうたんや布団の上に置かない・布などをかけない

通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

- ⊖ たこ足配線をしない

火災・感電の原因となることがあります。

- ⊖ 重いものを置いたり、上に乗ったりしない

倒れたり、落下してけがの原因となることがあります。特にお子様やペットにはご注意ください。

- ❗ 電源プラグは確実に差し込む

電源プラグはコンセントに根元まで確実に差し込んでください。差し込みが不完全だと発熱したり、ほこりが付着して火災・感電の原因となることがあります。また、電源プラグの刃に触れると感電することがあります。

- ⊖ 液晶画面に物をぶつけない

ガラスが割れ、飛び散ったガラスにより、けがの原因となります。

安全上のご注意 必ずお守りください(つづき)

⚠ 注意 (つづき)

❶ 内部の掃除について

内部にほこりがたまるると火災・故障の原因となることがあります。3年に1度は内部の掃除をお買い上げ店またはサポートセンターにご相談ください。

⚠ 音量について

周囲の人の迷惑とならないよう適度の音量でお楽しみください。特に、夜間での音量は小さい音でも通りやすいので、窓を閉めたりヘッドホンを使用したりして、隣近所への配慮を充分にし、生活環境を守りましょう。ヘッドホンを使用されるときは、耳を必要以上に

刺激しないよう、適度な音量でお楽しみください。耳を強く刺激するような大きな音で長時間続けて聞くと、聴覚に悪い影響を及ぼすことがあります。耳鳴りがするような場合は、音量を下げるか、使用を中止してください。また、ヘッドホンをつけたまま眠ってしまうと、災害時などに避難が遅れてしまうなどの危険があります。呼びかけられたら返事ができるくらいの音量でお聞きください。

❶ アンテナの工事は電気店に依頼する

アンテナ工事には技術と経験が必要ですので、必ず電気店にご依頼ください。

⚠ 注意 (電池)

❶ 指定された種類の電池を使用する

間違えると電池の破損・液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

⊘ 電池は幼児の手の届くところに置かない

電池は飲み込むと、窒息の原因となったり、胃などに止まったりして大変危険です。飲み込んだ恐れがあるときは、ただちに医師と相談してください。

⚠ 廃棄するときは

廃棄の際は、地方自治体の条例または規則に従ってください。

⊘ 電池の液がもれたときは素手でさわらない

- ・電池の液が目に入ったときは、失明の恐れがありますので、こすらずにすぐにきれいな水で洗ったあと、ただちに医師の治療を受けてください。
- ・皮膚や衣類に付着した場合は皮膚に傷害を起こす恐れがありますので、すぐにきれいな水で洗い流してください。皮膚の炎症など傷害の症状があるときは、医師に相談してください。

⚠ 注意 (廃棄)

⊘ 一般の廃棄物と一緒にしない

一般の廃棄物と一緒にしないでください。ごみ廃棄場で処分されるごみの中に本機を捨てないでください。

❶ 家電リサイクル法に従って廃棄する

家電リサイクル法の規定により、お客様がご使用済みのテレビを廃棄される場合は、収集・運搬と再商品化等料金をお支払いいただき、

対象品を販売店や市町村などの自治体に適正に引き渡すことが求められています。

詳細に関するお問い合わせは、家電製品協会家電リサイクル券センターまでお願いいたします。

電話：(フリーダイヤル) 0120-319640

ホームページ (URL):

http://www.rkc.aeha.or.jp/text/p_procedure_s.html

使用上のご注意・お手入れについて

液晶画面について

- 液晶画面を太陽に向けたままにすると、液晶画面を傷めてしまいます。屋外や窓際には置かないでください。
- 液晶画面を強く押ししたり、ひっかいたり、上に物を置いたりしないでください。画面にムラが出たり、液晶パネルの故障の原因になります。
- 寒いところでご使用になると、画像が尾を引いて見えたり、画面が暗く見えたりすることがありますが、故障ではありません。温度が上がると元に戻ります。
- 静止画を継続的に表示した場合、残像を生じることがありますが、時間の経過とともに元に戻ります。
- 使用中に画面やキャビネットがあたたかくなるありますが、故障ではありません。

輝点・減点について

- 画面上に赤や青、緑の点(輝点)が消えなかったり、黒い点(減点)が表れたりしますが、故障ではありません。液晶画面は非常に精密な技術で作られており、99.99%以上の有効画素がありますが、ごくわずかの画素欠けや常時点灯する画素があります。

メモリーに保存されるデータに関するご注意

- 本機のメモリーには、各種の機能設定データや放送局からのメール・番組購入履歴などが記録されます。
- 本機のメモリーには、放送事業者の要求によりお客様が入力した個人情報や、データ放送のポイントなどが記録される場合があります。
- 本機を廃棄・譲渡などする場合には、上記のメモリーに記録されているデータを消去することを強くおすすめします。
- 本機の不具合・修理など、何らかの原因で、本機のメモリーに保存されたデータが破損・消滅した場合など、いかなる場合においても記録内容の補償およびそれに付随するあらゆる損害について、当社は一切責任を負いかねます。また、いかなる場合において

も、当社にて記録内容の修復は致しません。予めご了承ください。

- 何らかの原因でコンテンツが外部録画機器で記録できなかった場合や、外部録画機器で記録されたコンテンツが破損あるいは消去された場合など、いかなる場合においてもコンテンツの補償およびそれに付随するあらゆる損害について、当社は一切責任を負いかねます。あらかじめご了承ください。

スクリーン画面のお手入れについて

- お手入れをする前に、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 液晶の画面は特殊加工がされていますので、なるべく画面に触れないようにしてください。また画面の汚れをふきとるときは、乾いた柔らかい布でふきとってください。
- アルコール、シンナー、ベンジンなどは使わないでください。変質したり、塗装がはげたりすることがあります。
- 化学ぞうきんをご使用の際は、その販売会社にご確認ください。
- 布にゴミが付着したまま強くふいた場合、傷が付くことがあります。
- 殺虫剤のような揮発性のものをかけたり、ゴムやビニール製品に長時間接触させると、変質したり塗装がはげたりすることがあります。

外装のお手入れについて

- 乾いた柔らかい布で軽くふいてください。汚れがひどいときは、薄い中性洗剤溶液を少し含ませた布でふきとり、乾いた布でカラ拭きしてください。
- アルコールやベンジン、シンナー、殺虫剤をかけると、表面の仕上げを傷めたり、表示が消えてしまうことがあるので、使用しないでください。
- 布にゴミが付着したまま強くふいた場合、傷が付くことがあります。
- ゴムやビニール製品に長時間接触させると、変質したり、塗装がはげたりすることがあります。

使用上のご注意・お手入れについて（つづき）

アンテナについて

- ・妨害電波の影響を避けるため、交通の頻繁な自動車道路や電車の架線、送配電線、ネオンサインなどから離れた場所に立ててください。
- ・アンテナ線を不必要に長くしたり、束ねたりすると、映像が不安定になる原因となりますのでご注意ください。
- ・アンテナは風雨にさらされるため、定期的に点検、交換することを心がけてください。美しい映像でご覧になれます。特にばい煙の多いところや潮風にさらされる場所では、アンテナが傷みやすくなります。映りが悪くなったときは、お買い上げ店にご相談ください。

電磁波妨害に注意してください

- ・本機の近くで携帯電話などの電子機器を使うと、電磁波妨害などにより機器相互間の干渉が起こり、映像が乱れたり雑音が発生したりすることがあります。

長時間ご使用にならないとき

- ・長時間使用しないと機能に支障をきたす場合がありますので、ときどき電源を入れて作動させてください。

国外では使用できません

- ・この製品が使用できるのは日本国内だけです。外国では放送方式、電源電圧が異なりますので使用できません。

This product is designed for use in Japan only and cannot be used in any other countries.

miniB-CAS カードは必要なときだけ抜き差ししてください

- ・必要以外に抜き差しすると、故障の原因となることがあります。
- ・miniB-CAS カードの中には IC が内蔵されています。折り曲げたり、大きな衝撃を加えたり、端子部に触れたりしないようにご注意ください。
- ・本機に差し込むときは「逆差し込み」や「裏差し込み」にならないように挿入してください。

取り扱い上のご注意

- ・液晶画面を強く押したり、ボールペンのような先の尖ったもので押さないでください。また、落としたり強い衝撃を与えないようにしてください。特に液晶画面のパネルが割れることがあります。
- ・振動の激しいところや不安定なところに置かないでください。また、絶対に落としたりしないでください。故障の原因となります。

使用環境について

- ・本機を冷えきった状態のまま室内に持ち込んだり、急に室温を上げたりすると、動作部に露が生じ（結露）、本機の性能を十分に発揮できなくなるばかりでなく、故障の原因となることがあります。このような場合は、よく乾燥するまで放置するか、徐々に室温を上げてからご使用ください。
- ・周辺温度は 5℃～35℃の範囲内でご使用ください。正しい使用温度を守らないと、故障の原因となります。

急激な温度差がある部屋（場所）でのご使用は避けてください

- ・急激な温度差がある部屋（場所）でのご使用は、画面の表示品位が低下する場合があります。

リモコンの取り扱いについて

- ・落としたり、踏みつけたり、液体をこぼしたりしないよう、ていねいに扱ってください。
- ・直射日光が当たるところ、暖房器具のそばや湿度が高いところには置かないでください。

映像や音声の遅れについて

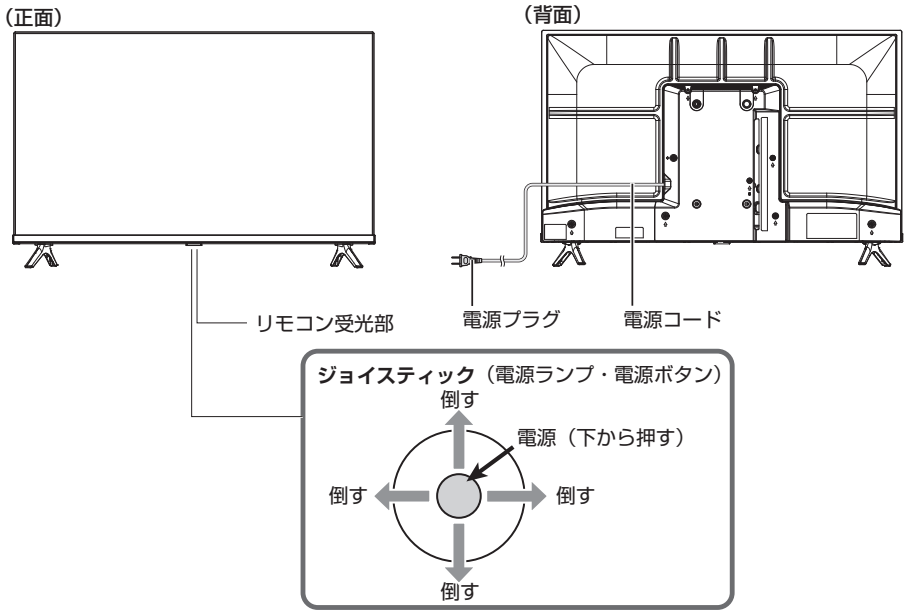
- ・テレビ放送、外部入力のソースによっては、映像や音声に若干の遅れが生じる場合があります。映像、音声でリズムを取るテレビゲームやカラオケ機器によっては、違和感を感じる場合がありますが、故障ではありません。あらかじめご了承ください。

USB ハードディスクについて

- ・USB ハードディスクを本機に正しく接続してください。正しく接続されていないと、本機では USB ハードディスクの登録ができません。またハードディスクを破損するおそれがあります。
- ・動作中は、テレビ本体、または本機に接続した USB ハードディスクの電源を切ったり、接続ケーブルを抜いたりしないでください。ハードディスクの故障の原因となります。

各部の名前

本体操作部



- ジョイスティックを下から押す：
電源「入」と電源「切」の切り換えを行います。
- ジョイスティックを向こう側(背面側)に倒す：
一時的に音を消す(消音する)ことができます。

- ジョイスティックを左右に倒す：
音量を調節することができます。右に倒すと、音量が大きくなり、左に倒すと音量が小さくなります。

- ジョイスティックを手前に(画面側)に倒す：
倒すごとに以下のようにモードが切り換わります。

チャンネル切換

↓
放送切換

↓
入力切換

↓
元に戻る(音量調節)

各切換モードでジョイスティックを左右に倒すと、それぞれの項目の切り換えができます。

お知らせ

- 電源ランプは本機の状態により以下のように点灯します。

電源「切」：消灯

電源「待機」：赤

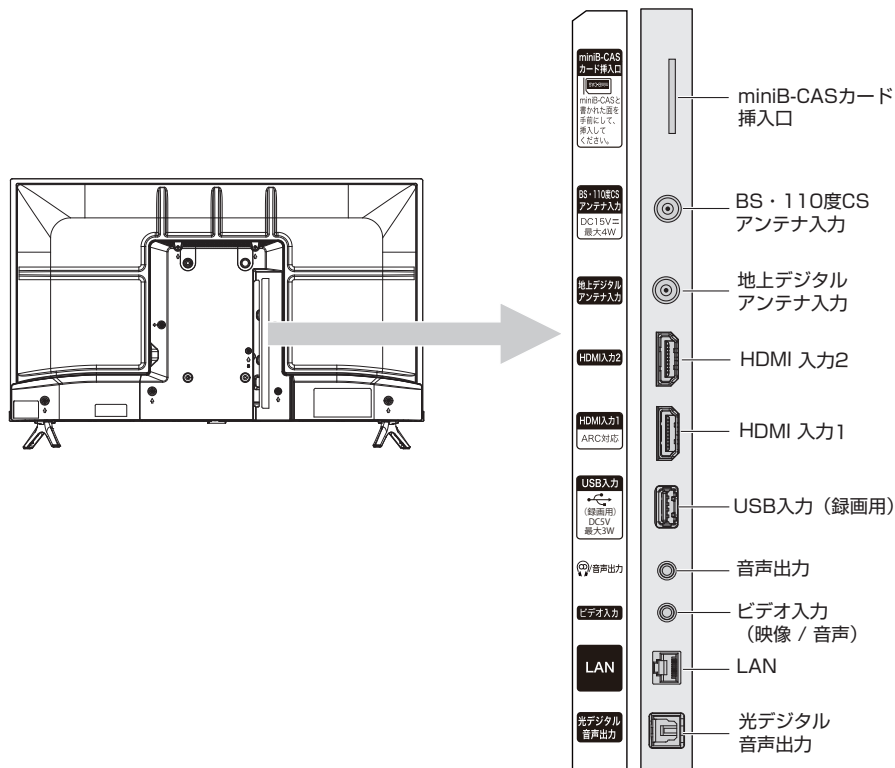
電源「入」：緑

△ご注意

- 「待機」のときは、電源を切った状態と比較して消費電力が高くなります。旅行など、本機を長時間使用しない場合で、録画予約をしていないときは、本体の電源ボタンを「切」にしてください。

各部の名前 (つづき)

本体接続部



LAN

データ放送や双方向通信用にブロードバンドへ接続するためのモデムやルーターを接続します。

光デジタル音声出力

市販の光ケーブルを使用して対応機器を接続します。

HDMI 入力 1/HDMI 入力 2

市販の HDMI ケーブルを使用して対応機器を接続します。

音声出力

ヘッドホンや外部オーディオ機器などと接続します。

USB 入力 (録画用)

市販の USB ハードディスクを接続します。

ビデオ入力 (映像 / 音声)

付属のビデオ入力用変換アダプターを使用して対応機器を接続します。

miniB-CAS カード挿入口

miniB-CAS カードを挿入します。

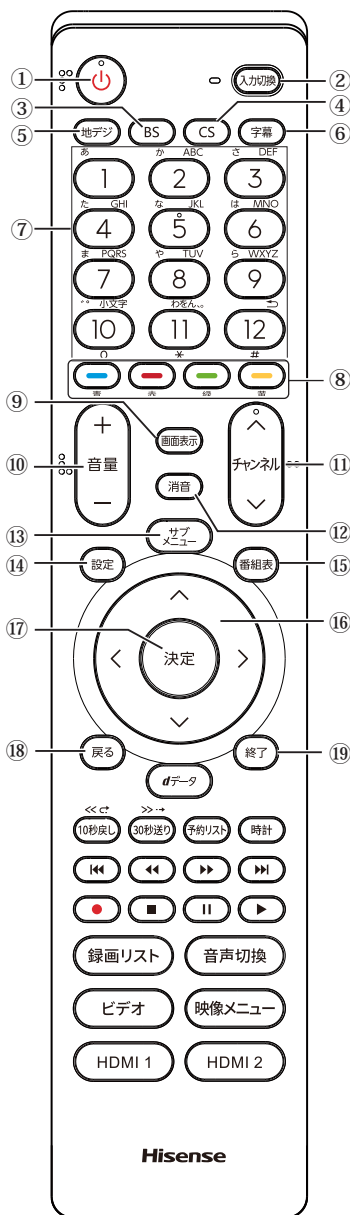
地上デジタルアンテナ入力

アンテナケーブルを使用して地上デジタルアンテナを接続します。

BS・110度CSアンテナ入力

アンテナケーブルを使用して BS・110度CSアンテナを接続します。

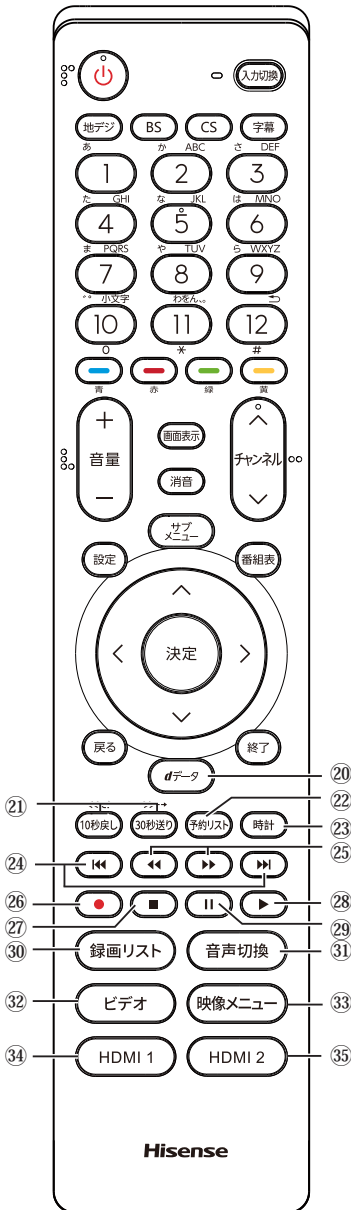
リモコン



- ① **【電源】**
待機と電源オンの切り換えを行います。
- ② **【入力切換】**
接続している外部機器の映像に切り換えます。
- ③ **【BS】**
BS デジタル放送を受信します。
- ④ **【CS】**
110 度 CS デジタル放送を受信します。
- ⑤ **【地デジ】**
地上デジタル放送を受信します。
- ⑥ **【字幕】**
字幕の表示 / 非表示を切り換えます。
- ⑦ **【1】～【12】（文字ボタン）**
チャンネルの直接選局などの数字入力や文字の入力に使用します。
- ⑧ **【青】/【赤】/【緑】/【黄】**
デジタル放送中受信中の双方向サービスでの項目選択や、デジタルメニュー中の操作選択をします。
- ⑨ **【画面表示】**
受信チャンネルなどの情報を表示します。
- ⑩ **【音量+】/【音量-】**
スピーカー（またはヘッドホン）の音量を調節します。
- ⑪ **【チャンネルハ】/【チャンネルV】**
チャンネルの順送りによる選局を行います。
- ⑫ **【消音】**
消音します。
- ⑬ **【サブメニュー】**
サブメニューを表示します。予約リストや画面サイズ切換などのモードに入るときに使用します。
- ⑭ **【設定】**
設定メニューを表示します。
- ⑮ **【番組表】**
番組表の表示 / 非表示を行います。
- ⑯ **【∧】/【∨】/【<】/【>】**
メニュー操作中などに、項目を選択します。
- ⑰ **【決定】**
【∧】/【∨】/【<】/【>】での選択を確定します。
- ⑱ **【戻る】**
前の表示に戻ります。
- ⑲ **【終了】**
操作を終了します。

各部の名前 (つづき)

リモコン (つづき)



- ⑳ [d データ]
デジタル放送番組に連動したデータ放送画面に切り換えます。
- ㉒ [予約リスト]
予約リストを表示します。
- ㉓ [時計]
時計を表示します。
- ㉑ [音声切替]
音声を切り換えます。
- ㉒ [ビデオ]
ビデオに切り換えます。
- ㉓ [映像メニュー]
映像メニューを表示します。
- ㉔ [HDMI1]
HDMI1 に切り換えます。
- ㉕ [HDMI2]
HDMI2 に切り換えます。

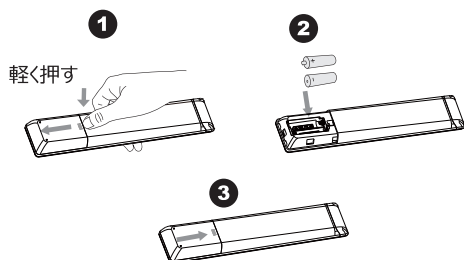
以下のボタンは主に USB ハードディスク (市販品) 接続時に使用します。

- ㉑ [30 秒送り] [10 秒戻し]
再生中の場面から見たい場面を探します。
- ㉒ [スキップ]
現在のチャプターの先頭、または次のチャプターの先頭から再生します。
- ㉓ [サーチ (早戻し / 早送り)]
再生中の場面を見ながら見たい場面を探します。
- ㉔ [録画]
現在見ている番組の録画をします。
- ㉕ [停止]
録画や再生中の映像を停止します。
- ㉖ [再生]
録画番組を再生します。
- ㉗ [一時停止]
再生中の映像を一時停止します。また放送中の画面を静止します。
- ㉘ [録画リスト]
録画した番組の一覧を表示します。

リモコンについて

電池の入れ方

- ① 電池カバーを開ける
- ② + 極、- 極の向きを確認し、正しい方向で単四形乾電池の 1 本目を入れる
- ③ 続けて同様に 2 本目の電池を入れ、電池カバーがカチッというまで押し閉める



△ご注意

電池は誤った使い方をすると液漏れや破裂することがあります。特に以下の点に注意してお使いください。

- 違う種類の電池を混ぜて使用しない。
- 新しい電池と古い電池を混ぜて使用しない。
- 使えなくなった電池はすぐに取り出す。
- 液漏れした電池は使用しない。

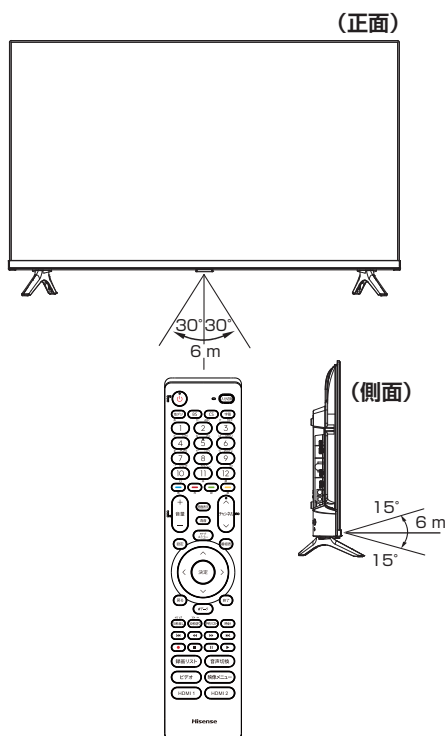
漏れた液に触れると肌が荒れることがあります。万一、液が身体についたときは、水でよく洗い流してください。

お知らせ

- 付属の電池は動作確認用です。早めに新しい電池と交換してください。
- リモコンを長く使わないときは電池を取り出しておいてください。
- 電池を廃棄するときはお住まいの自治体で定める廃棄方法に従ってください。

操作のしかた

本体のリモコン受光部に向けて操作してください。



△ご注意

- リモコンには衝撃を与えないでください。また、水に濡らしたり温度の高い所に置いたりしないでください。
- リモコンは直射日光の当たる場所に取り付けたり、放置したりしないでください。熱により変形することがあります。
- 本体のリモコン受光部に直射日光や強い照明が当たっているとリモコンが動作しにくくなる場合があります。その場合は照明または本体の向きを変えるか、リモコン受光部にリモコンを近づけて操作してください。
- リモコンを操作してもテレビが動作しない場合は、新しい乾電池と交換してください。
- リモコンを使用するときは、製品が見える場所から操作してください。

デジタル放送について

本機では地上デジタル、BS・110度CSデジタルの放送を視聴することができます。デジタル放送では、以下のようなアナログ放送には無い機能を楽しむことができます。

デジタル放送の特徴

高画質・高品質

デジタル放送では、従来のアナログ放送で見られるようなゴースト（映像の二重化）やスノーノイズ（雪が舞っているようなちらつき）といった映像の乱れが起こりません。なかでもデジタルハイビジョン放送では、アナログの通常放送と比較して走査線数（ブラウン管方式のテレビの映像の細密度を示す指数）で約2倍、解像度にして約8倍の高精細映像を楽しむことができます。音声についても、音質が劣化しにくい方式で伝送しているため、高音質な音声を再現できます。

データ放送

テレビ番組と連動したデータ放送や、天気予報や地域情報などの独立したデータ放送の受信ができます。

番組表（EPG）

デジタル放送では、送られてくるデータの中に番組の情報が含まれています。これを利用して画面上に番組表を表示することができます。

したがって、最初にご使用になるとき、あるいは電源コードを長期間（一週間以上）外していた場合などには表示されません。

双方向サービス

テレビ上でのショッピングやリクエスト、クイズ番組の解答など、視聴者として番組に参加することができます。双方向通信をなされたい場合はADSLなどのサービスを提供するプロバイダーとの契約が必要です。

マルチ（複数）チャンネル

地上デジタル放送では、一つのチャンネルあたり、6MHzの帯域が与えられています。この帯域はさらに430kHzずつ、13のセグメントとよばれる帯域に分割されています。

この13のセグメントのうち、デジタルハイビジョン放送（HDTV）では、12セグメントを使って放送されます。標準画質放送（SDTV）の場合は一つの番組では4セグメントしか使わないので、一度に3つの番組を放送することができます。

なお、本機は受信中の放送がHDかSDかを自動判別して映像を表示します。

デジタル音声放送（デジタルラジオ）

従来のアナログラジオ放送（AM、FM、短波）とは異なり、音楽CD並みに高音質な音声のみの放送を楽しむことができます。地上デジタル音声放送（デジタルラジオ）には、本機は対応していません。

字幕放送

デジタル放送の番組のセリフなどの音声を、文字にして画面に表示させることができます。

文字スーパー

地域情報や速報など、番組に連動しない文字情報（文字スーパー）を画面に表示することができます。

緊急警報放送

地震など大規模災害が発生した場合や、津波警報が発表された場合などに放送される警報放送です。災害の発生に伴う被害の予防や軽減に役立たせることを目的としています。

マルチビューサービス

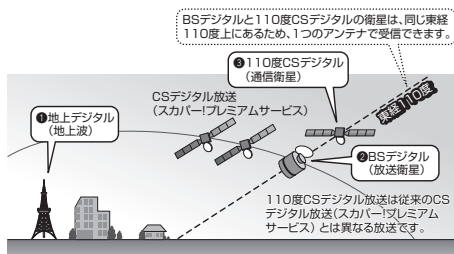
放送中の番組を、別のカメラから見た視点で見ることができます。

※上記のサービスや機能は、すべてのデジタル放送の種類や放送局、番組で行っているというものではありません。

本機で視聴可能なデジタル放送の種類

本機で視聴できるデジタル放送は、地上デジタル、BS デジタル、110 度 CS デジタル放送です。

上記を除くデジタル CS 放送には対応しておりません。



デジタル放送を視聴するための準備

アンテナなどについて

デジタル放送を視聴するためには、受信アンテナの用意をする必要があります。また、BS・110度CS デジタル放送を受信するには、放送局や放送事業者を受信申し込みをする必要があります。

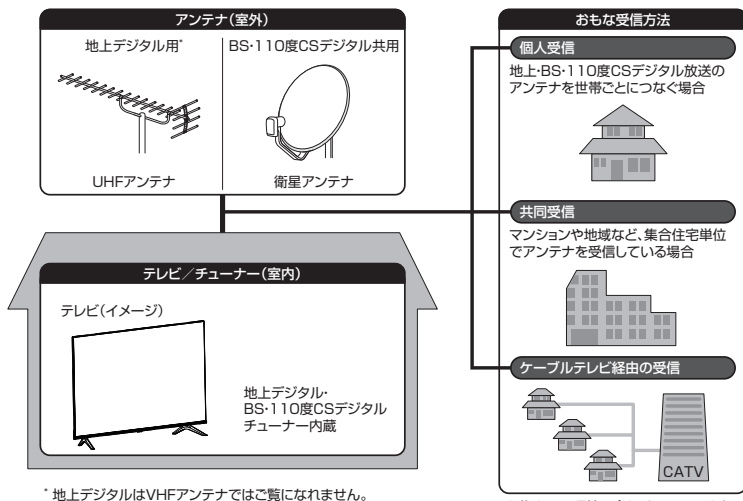
これらの準備の仕方は、本機をご使用になる環境によって異なります。詳しくはお買い上げ店などでご確認ください。

ケーブルテレビをご利用の場合

本機はケーブルテレビのパススルー方式（同一周波数またはUHF 帯域周波数変換）および帯域外周波数パススルーに対応しております。詳しくはご契約のケーブルテレビ事業者にお問い合わせください。

お知らせ

- 地上デジタル放送の受信には、UHF アンテナを使用します。現在お使いのアンテナがUHF 対応のものであれば、基本的にそのまま使用いただけますが、場合によっては調整やブースターの追加が必要になることもあります。詳しくは販売店などにお問い合わせください。
- 衛星放送用にはBS・110度CS 共用アンテナをご使用ください。アンテナ線 / ブースター / 分配器などは、110度CS 帯域(2,150MHz) まで対応しているものをご使用ください。その他のものを使用すると、映像が映らない場合があります。BS デジタル放送専用のアンテナでは110度CS 放送は受信できません。



* 地上デジタルはVHFアンテナではご覧になれません。

お住まいの環境に合わせてアンテナをご用意ください。

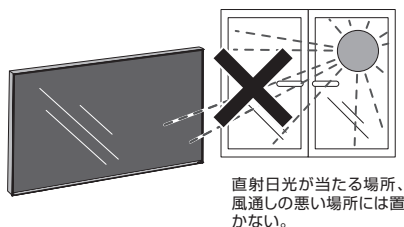
設置のしかた

本機は重量のある精密機器です。運搬や設置を行う際は、落下や転倒に十分注意してください。また、水平で安定した場所に設置するようにしてください。設置はできるだけ専門業者に依頼してください。

設置の手順

1 置く場所を決める

- 直射日光が当たらず、気温が安定している場所を選んでください。
- グラつきなどがなく、きちんと固定できる場所を選んでください。



2 スタンドを取り付ける

△ご注意

- 壁掛けの設置をする場合以外は、スタンドを外さないでください。

3 配置する

△ご注意

- 液晶パネル部に手を触れないようにご注意ください。

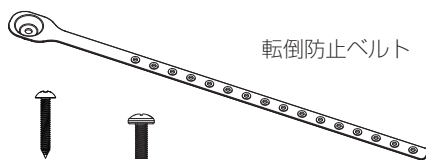
4 転倒防止策を実施する

- ベルトはへこんだ側が表になるように取り付けてください。
- 転倒防止ベルトの太い部分を、テレビ本体背面の VESA 規格のねじ穴の一つに、付属のねじ（短）でしっかりと取り付けます。もう一方の輪の部分は設置する台の確実に支持できる天面に付属のねじ（長）で固定します。

※ 後方には倒れることがあります。固定後は台を壁などに近付けて設置し、お子様がはいれないようにしてください。

△ご注意

- 本機が転倒するとお客様のけがや本機の故障につながります。必ず転倒防止策を行ってください。
- 左記の方法で本機の固定ができない場合は、お買い上げ店などにご相談ください。



転倒防止ベルト



ねじ（長）



ねじ（短）

ST4 × 25 M6 × 12

壁に掛けたとき

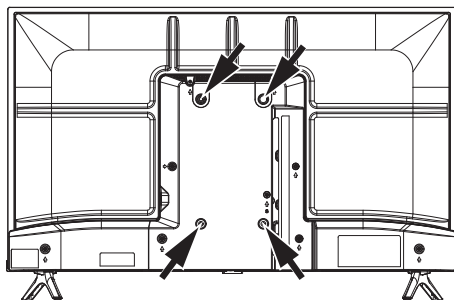
本機を市販の壁掛け用の金具を使用して壁に掛けることもできます。

テレビ本体背面の VESA 規格のねじ穴を使用します。(→ 37 ページ)

△ご注意

- 壁に掛ける際は、必ずお買い上げ店または工事業者にご依頼ください。
- 本機を壁掛け金具に設置するときは、壁掛け金具の角度を 0°（垂直）にして取り付けてください。本機を壁掛けで使用するときは、角度を変更することはできません。

VESA 規格 ねじ穴（4カ所）



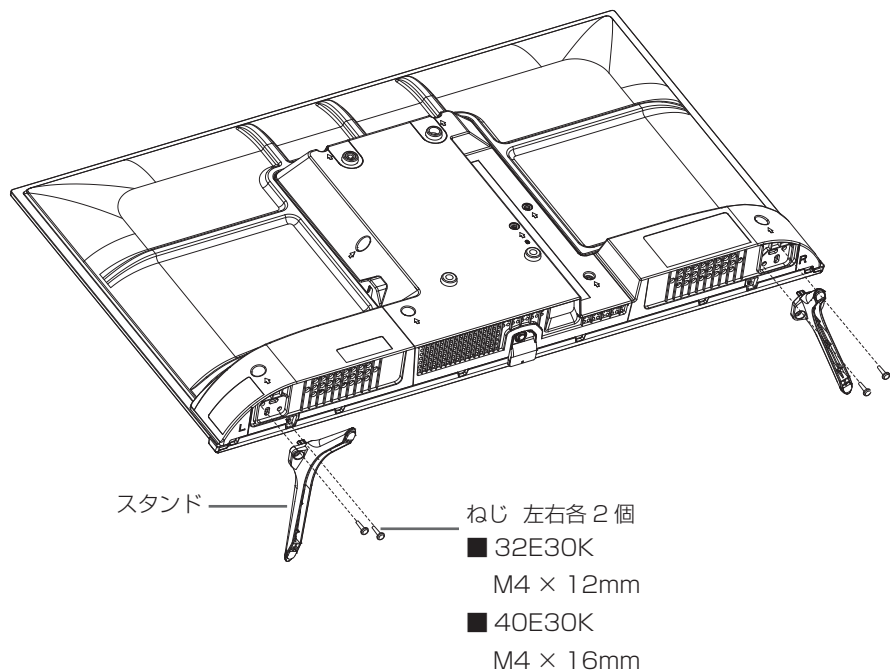
スタンドを取り付ける

△ご注意

- 本機は必ず2人以上で運搬 / 移動 / 設置してください。
- 液晶パネル部に手を触れないようにご注意ください。
- 取り付ける前に、プラスドライバー、本機のサイズより大きい毛布や保護シート、テーブルやテレビ台を準備してください。
- 取りつける際は、つなぎ目の端部などでけがをしないように、手袋を着用してください。また、ネジをきつく締め過ぎないように注意してください。
- テーブルやテレビ台に置いたあと、がたつきや、転倒しないことを確認してください。
- 壁掛けの設置をする場合以外は、スタンドをはずさないでください。

※本体や液晶画面を傷つけないように、画面を下にして置いてください。

- ① スタンドと本機下部の溝の形状を合わせ、スタンドの4カ所を付属のねじ4個でしっかりと固定する



設置のしかた (つづき)

miniB-CAS カードを入れる

miniB-CAS カードについて

- 地上デジタル放送・BS デジタル放送・110度CS デジタル放送が視聴制限に使用しているのが miniB-CAS カードです。
- デジタル放送をお楽しみいただくためには、miniB-CAS カードを本機に挿入していただく必要があります。

お知らせ

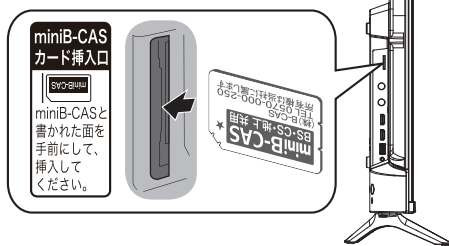
- WOWOW などの有料サービスをご利用される場合は、別途契約が必要です。
- miniB-CAS カードに関するお問い合わせは、カードの裏面記載の(株)ビーエス・コンディショナルアクセスシステムズ カスタマーセンターまでお願いいたします。



取扱い上のご注意

- miniB-CAS カードを折り曲げたり、傷つけたりしないでください。破損などによる miniB-CAS カードの再発行は有料です。
- miniB-CAS カードの金属部（集積回路）には触れないでください。
- miniB-CAS カードの抜き差しは、必要な場合を除いて行わないようにしてください。

miniB-CASカードの挿入する向きは、カード切りかき部分が下になるように入れてください。
カチッと音がするまで挿入します。



(左側面)

miniB-CAS カードの入れかた

- 1 本機の電源を切る
- 2 同梱の「ビーキャスト (miniB-CAS) カード使用許諾契約約款」の内容を読み、了解していただいた上で、台紙から miniB-CAS カードをはがす
- 3 miniB-CAS カードを挿入する

お知らせ

- miniB-CAS カードには視聴情報などが記憶されますので、本機に入れたままご使用ください。
- miniB-CAS カードの盗難などにご注意ください。他人がお客様のカードを使用して有料番組を視聴した場合も、視聴料はお客様の口座に請求されます。
- miniB-CAS カードは(株)ビーエス・コンディショナルアクセスシステムズから貸与されているものです。本機を廃棄なさる場合は同社にご返却ください。

アンテナの接続

△ご注意

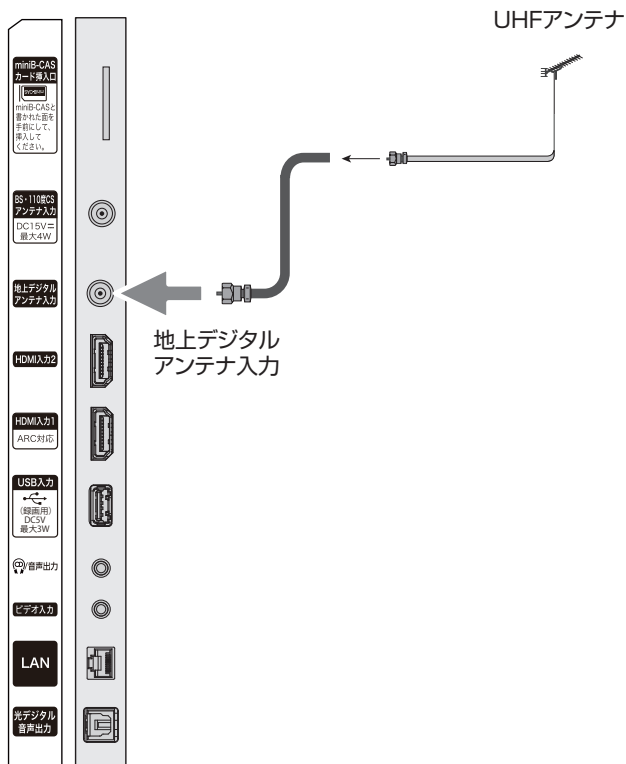
- アンテナの取り付け・配線は、必ず専門業者にご依頼ください。
- ケーブルテレビをご利用の場合、ケーブル会社からの再送信の方式によって接続のしかたが異なります。詳しくは、ケーブルテレビ会社にお問い合わせください。

UHF アンテナを接続する

市販のアンテナケーブルを、地上デジタルアンテナ入力端子と UHF アンテナに直接接続します。

- 地上デジタル放送の受信には、UHF アンテナを使用します。詳しくは販売店などにお問い合わせください。
- アンテナをアンテナ入力端子に接続するときは、市販のアンテナケーブルを使用してください。

- ご自宅のアンテナ線がフィーダー線の場合は、円筒形の同軸ケーブルに変換するため、市販のアンテナ整合器をお使いください。
- [サブメニュー] → その他の操作 → アンテナレベル表示を選択して、信号強度が最大になるようにアンテナの方向を調整してください。お住まいの地域・地形によって信号強度は異なりますが、信号強度が推奨範囲内（30～65）になっているか、信号品質が推奨の数値以上（43）になっているかを確認してください。



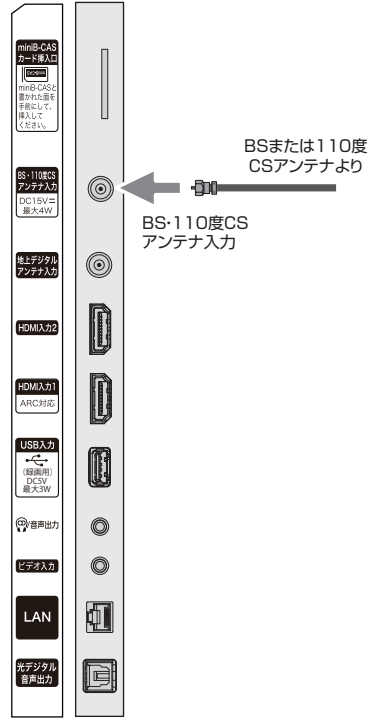
アンテナの接続 (つづき)

BS・110度CS 共用アンテナを接続する

市販のアンテナケーブルを、BS・110度CS デジタルアンテナ入力端子とBS・110度CS アンテナに直接接続します。

- アンテナはBS・110度CS 共用アンテナをご使用ください。アンテナ線/ブースター/分配器などは、110度CS帯域(2,150MHz)まで対応しているものをご使用ください。その他のものを使用すると、映像が映らない場合があります。これまでご使用になっていたBSアンテナでも、性能や方向調整が十分な場合はBSデジタル放送を受信できますが、110度CSデジタル放送の受信にはBS・110度CS 共用アンテナが必要です。
- BS・110度CS 共用アンテナの取り付けについては、アンテナの取扱説明書をご覧ください。
- BS・110度CS デジタルアンテナ入力端子にVHF/UHFのアンテナ線を接続しないでください。故障の原因となります。
- [サブメニュー] → その他の操作 → アンテナレベル表示を選択して、信号強度が最大になるようにアンテナの方向を調整してください。信号強度が推奨範囲内(30~65)になっているか、信号品質が推奨の数値以上(43)になっているかを確認してください。
- [設定] を押して、初期設定→アンテナ設定→BS・110度CS アンテナ電源供給でBS・110度CS アンテナ電源供給を供給するに設定してください。
- 家庭用分配器を使って複数のBS機器をつなぐときは、どの端子からも電源を供給するタイプを必ずお使いください。この場合、本機か他のBS機器か、どちらかのアンテナ電源の供給を「供給する」に設定してください。

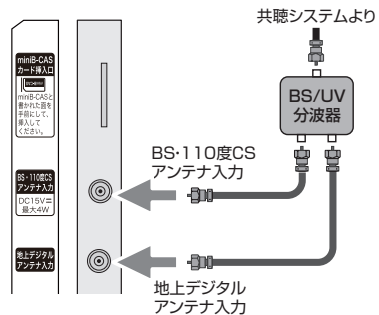
両方とも「供給する」に設定すると故障の原因となります。また、本機の電源を「待機」・オフ状態にしたときはアンテナ電源は供給されません。他のBS機器を本機がオフまたは「待機」のときに使う場合は、当該機器より電源を供給してください。



マンションなどの共聴システムで接続する

まずはお住まいのマンションなどが、地上デジタルやBS・110度CS デジタルにどのように対応しているかを、マンション管理会社などにご確認ください。BS・110度CSとVHF/UHFが混在されている場合は、市販のBS/UV分波器を使用して接続します。分波器は110度CS帯域(2,150MHz)まで対応している金属シールドタイプをお選びください。

- [設定] を押して、初期設定→アンテナ設定→BS・110度CS アンテナ電源供給でBS・110度CS アンテナ電源供給を供給しないに設定してください。



LAN への接続

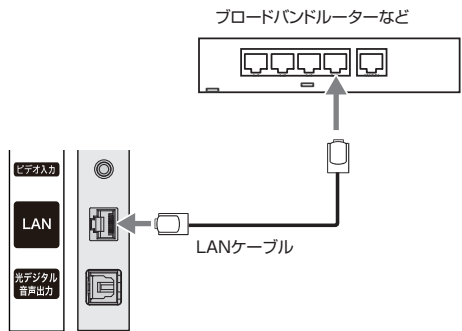
光回線などのブロードバンド回線に接続して、データ放送の双方向サービスを利用することができます。双方向サービスを使用すると、ご家庭からテレビ局に向けてクイズ番組の回答やアンケートなどの情報を送ることができます。

お知らせ

- 双方向サービスを利用しない場合、LAN への接続は必要ありません。
- 双方向サービスを利用するには、光回線や ADSL などのサービスを提供する回線業者やプロバイダーへの加入契約が必要です。本書では、すでにパソコンやスマートフォンがインターネットに接続されているなど、ブロードバンド環境をお持ちであることを前提に説明しています。ブロードバンド環境をお持ちでなく、これから加入契約をされる場合は、サービスを提供する回線業者やプロバイダーにご相談ください。
- 回線業者やプロバイダーとの契約内容によっては、複数台の接続ができない場合や、接続にあたって追加料金が必要な場合があります。回線業者やプロバイダーにご相談ください。
- 接続に必要なブロードバンドルーターなどの機器は、回線業者やプロバイダーの指定された製品をお使いください。
- 回線業者やプロバイダーから提供される説明書もよくお読みください。不明な点は回線業者やプロバイダーにお問い合わせください。
- USB 接続の ADSL モデムをお使いのときは、回線業者やプロバイダーにご相談ください。

有線 LAN で接続する

- お使いの FTTH 回線終端装置、ケーブルモデム、または ADSL モデムにルーター機能がある場合は、LAN ポートの一つと本機の LAN 端子を接続してください。LAN ポートに空きがない場合は回線業者やプロバイダー指定のハブを使用して接続してください。
- [設定] を押して、初期設定→通信設定から設定することができます。

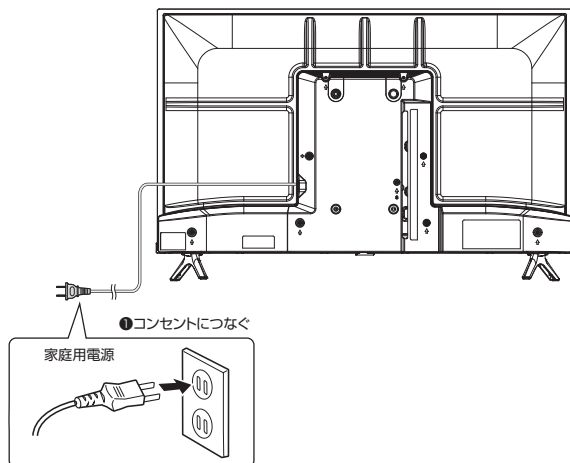


電源コードの接続

接続する

すべての接続が終わったら、最後に電源コードを接続してください。

- ① 電源プラグは交流 100V コンセントに根元まで確実に差し込む

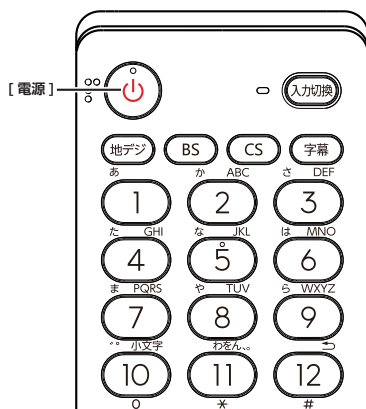


お知らせ

- 電源プラグは、長時間ご使用にならないとき、非常時や機器の接続、お手入れなどをするとき以外はコンセントに差し込んでおいてください。電源プラグを抜いたままにしておくとデジタル放送の番組情報が取得できません。また予約した番組の録画ができません。

電源に関するご注意

- 電源コードは必ず最後に接続してください。
- 電源プラグは、抜き差しがしやすい位置の、壁のコンセントに直接差すようにしてください。
- 使用中に電源プラグを抜いたり、電源を突然遮断しないようにしてください。設定などが無効になってしまうことがあります。またハードディスクが故障するおそれがあります。まずリモコンの【電源】を押して電源を「待機」(赤ランプ点灯)にし、そのおよそ5秒後に本体の電源ボタンを「切」(赤ランプ消灯)にし、その後で電源プラグを抜いてください。



他の機器との接続

本機では、他の機器を接続して映像や音を楽しんだり、本機で受信した番組を他の機器（市販品）に録画することができます。

△ご注意

- アンテナの取り付け・配線は、必ず専門業者にご依頼ください。
- 接続ケーブルの抜き差しは、ケーブルでなくプラグを持ってしっかりと行ってください。
- ノイズが出る場合は、機器間の距離が十分にとれるように配置してください。
- 接続する機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

USB ハードディスクを接続する

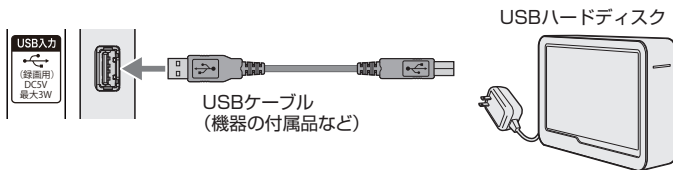
市販のUSB ハードディスクを USB 入力端子に接続することができます。録画用に設定できる USB ハードディスクは 8 台です。

お知らせ

- USB ハードディスクは本機との相性で使用できない場合があります。
- 本体側面の USB 端子に USB バスパワー方式の機器を接続して同時に使用すると、USB ハードディスクでの録画動作に障害を与えることがあります。
- USB ハードディスクや USB ハブは専用の AC アダプターを接続してご使用ください。本機で接続確認済の機器でも AC アダプターを接続しない場合は動作保証できません。
- 複数台の USB ハブを経由して本機に USB ハードディスクを接続することはできません。

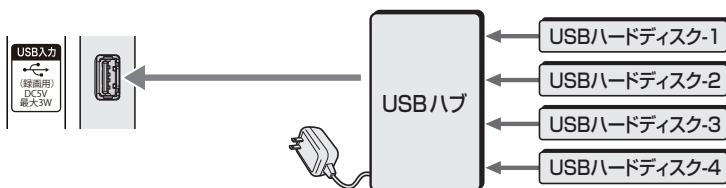
USB ハードディスクが 1 台のとき

USB ハードディスクは、USB 入力に接続します。



USB ハードディスクが 4 台のとき

- USB ハブを使用すれば、複数の USB ハードディスクを接続することができます。
- 8 台までの USB ハードディスクを本機に登録できます。ただし、同時に接続できるのは 4 台までです。



他の機器との接続（つづき）

ヘッドホンやアナログ音声入力端子付のオーディオ機器を接続する

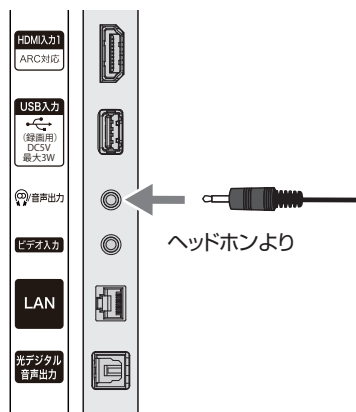
市販のヘッドホンのプラグを、本機のヘッドホンジャックに接続します。[音量+]/[音量-]で音量を調整します。またアナログ音声入力端子付のオーディオ機器に接続することができます。

お知らせ

- ヘッドホンを接続するとき、本機のスピーカーから、音を出すか出さないかの設定ができます。
(👉機能操作ガイド 38 ページ)

⚠️ご注意

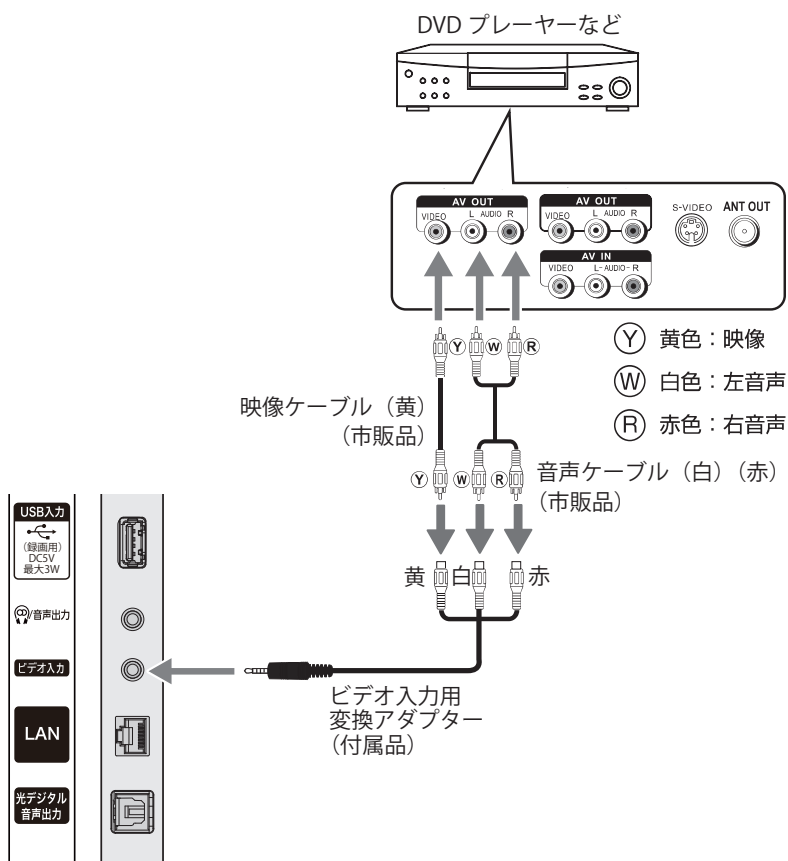
- 大きな音量設定でヘッドホンプラグを抜くと、スピーカーから大きな音が出ます。音量を下げてから、ヘッドホンプラグを抜くようにしてください。
- ヘッドホンを使用されるときは、耳を必要以上に刺激しないよう、適度な音量でお楽しみください。耳を強く刺激するような大きな音で長時間続けて聞くと、聴覚に悪い影響を及ぼすことがあります。耳鳴りがするような場合は、音量を下げるか、使用を中止してください。また、ヘッドホンをつけたまま眠ってしまうと、災害時などに避難が遅れてしまうなどの危険があります。呼びかけられたら返事ができるくらいの音量でお聞きください。



DVD プレーヤーなどを接続する

ビデオ入力端子に接続する

市販の映像、音声ケーブルと付属のビデオ入力用変換アダプターで、DVD プレーヤーなどのAV 出力端子と本機のビデオ入力端子を接続します。黄色のプラグをビデオ入力用変換アダプターの黄色に、赤と白のプラグをビデオ入力用変換アダプターの赤と白に、プラグとビデオ入力用変換アダプターの色をそれぞれ合わせるようにして接続してください。



他の機器との接続（つづき）

HDMI 出力のある機器に接続する

HDMI 入力端子に接続する

市販の HDMI ケーブルを使い、ブルーレイレコーダー、デジタルチューナー、パソコンなどの HDMI 出力と本機の HDMI 入力端子 1～HDMI 入力端子 2 のいずれかとをつないでください。HDMI ケーブルはデジタル信号で映像と音声を 1 本で接続します。

● パソコンと HDMI ケーブルで接続する

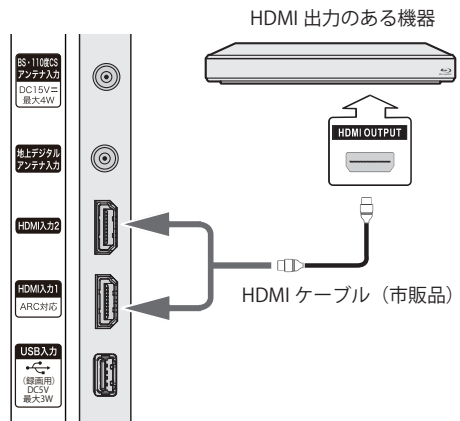
HDMI ケーブルでパソコンの HDMI 出力と、本機の HDMI 入力端子を接続します。対応フォーマットは下記の通りです。

解像度	信号名
640 × 480@60Hz	VGA
800 × 600@60Hz	SVGA
1024 × 768@60Hz	XGA
1280 × 768@60Hz	WXGA
1360 × 768@60Hz	WXGA
1280 × 1024@60Hz	SXGA
1920 × 1080@60Hz	Full HD

パソコン側で外部出力の設定をしてください。詳しくはパソコンの取扱説明書をご覧ください。

お知らせ

- パソコンなどの DVI 出力のある機器との接続は保証しておりません。
- 映像・音声が表示・出力されない場合は、接続する機器の説明書などで出力機器の設定をご確認ください。



お知らせ

- すべてのパソコンでの動作検証は行っておりません。また、パソコンのビデオカードなどによっては、上記のフォーマットでも表示できない場合があります。
- 必要に応じて画面モードを設定してください。(👉機能操作ガイド 10 ページ)

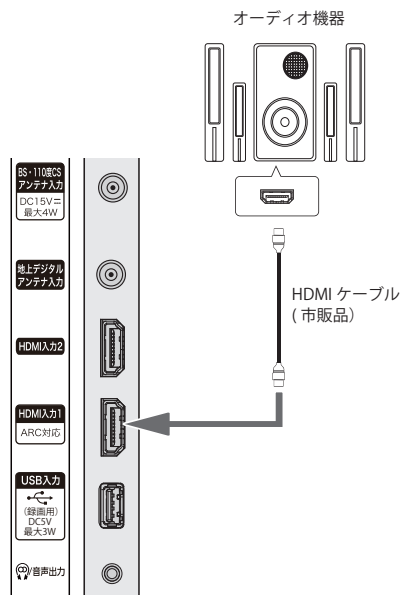
HDMI 出力のある機器に接続する (つづき)

HDMI 入力端子に接続する (ARC)

HDMI 入力 1 は ARC (オーディオリターンチャンネル、Audio Return Channel) に対応しています。ARC 対応の AV アンプやオーディオ機器と HDMI ケーブルで接続することにより、HDMI ケーブル経由でデジタル音声出力することができます。本機では接続する機器に応じてデジタル音声出力の設定を選ぶことができます。

(👉機能操作ガイド 37 ページ)

- HDMI 運動対応のオーディオ機器を本機に HDMI ケーブルで接続すれば、本機のリモコンでオーディオ機器の音量を調節するなどの操作ができます。
- オーディオ機器の HDMI 入力端子に HDMI 運動機器を接続することができます。
- オーディオ機器が対応しているデジタル音声入力に従って、「デジタル音声出力」(👉機能操作ガイド 37 ページ) の設定をします。また、必要に応じて「HDMI 運動設定」(👉機能操作ガイド 31 ページ) をしてください。
- ARC 対応のオーディオ機器は HDMI 入力 1 (ARC) 端子に接続してください。



お知らせ

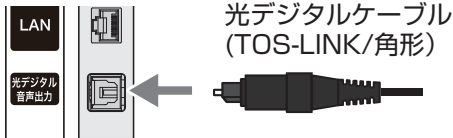
- 本機にオーディオ機器が接続されている場合のみ、ARC 機能が動作します。

他の機器との接続 (つづき)

光デジタルケーブルで AV アンプなどを接続する

市販の光デジタルケーブルで AV アンプなどの光デジタル音声入力と、本機の光デジタル音声出力を接続します。光デジタル接続を使用することにより、AV アンプなどから音声を出力し、5.1ch の臨場感のある高音質な音声を楽しむことができます。本機では接続する機器に応じてデジタル音声出力の設定を選ぶことができます。

(☞機能操作ガイド 37 ページ)



- ミニコンポなどのオーディオ機器に接続するとき
 - ・ 本機の音量を最小に調節し、ミニコンポなどのオーディオ機器側で音量を調節してください。
 - ・ オーディオ機器が対応しているデジタル音声入力に従って、「デジタル音声出力」(☞機能操作ガイド 37 ページ) の設定をします。
- サンプリングレートコンバーター内蔵の MD レコーダーや DAT に接続するとき
 - ・ MD レコーダーや DAT の光デジタル音声入力端子に接続すれば、高音質で録音して楽しむことができます。
 - ・ 「デジタル音声出力」(☞機能操作ガイド 37 ページ) を「PCM」に設定します。
- MPEG-2 AAC デコーダーに接続するとき
 - ・ デジタル放送の MPEG-2 AAC 方式の信号を、MPEG-2AAC デコーダーで楽しむことができます。
 - ・ 「デジタル音声出力」(☞機能操作ガイド 37 ページ) を「デジタルスルー」または「サラウンド優先」に設定します。

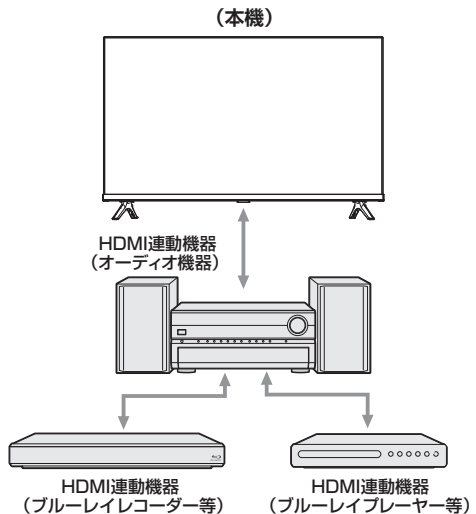
HDMI 連動 (CEC) 対応機器と接続する

市販の HDMI ケーブルを使い、HDMI 連動 (CEC) 対応機器 (AV アンプ、ブルーレイレコーダーなど) を接続することにより、本機のリモコンで操作が可能です。

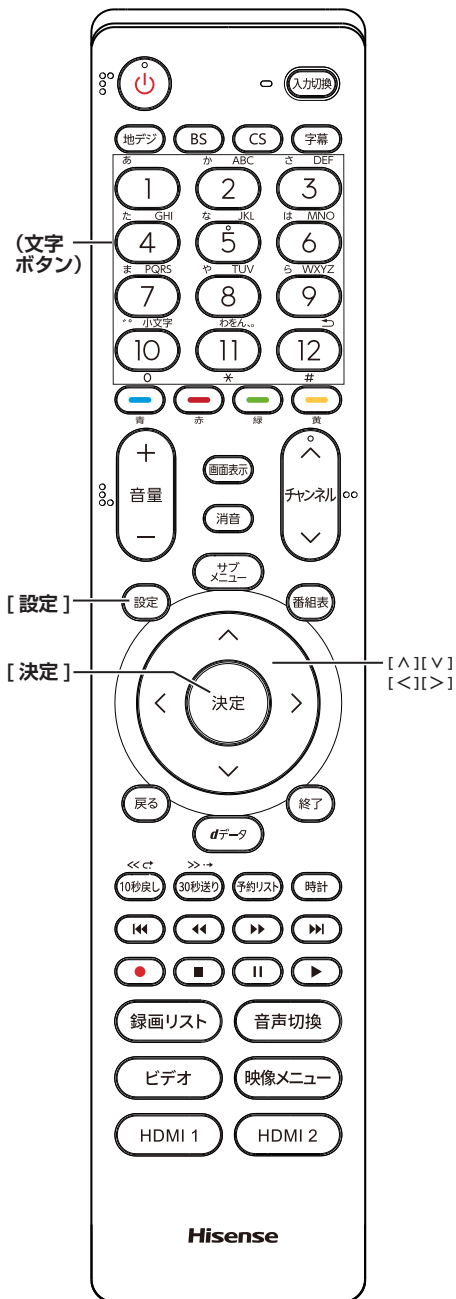
(☞機能操作ガイド 31 ページ)

お知らせ

- HDMI 連動 (CEC) に対応した、AV アンプとブルーレイレコーダー等を同時に使用する場合は、本機とレコーダーの間に AV アンプを接続してください。またブルーレイレコーダー等の再生時に、映像より音声が進んで聞こえる場合は、AV アンプの音声遅延設定で調整してください。
- HDMI 連動 (CEC) 対応機器を使用するには、HDMI 連動設定が必要です。(☞機能操作ガイド 31 ページ) また接続する AV アンプやブルーレイレコーダー等での設定も必要です。詳しくは各機器の取扱説明書をお読みください。



「はじめての設定」をする



本機の電源を初めて入れると、「はじめての設定」の画面が表示されます。テレビ放送の視聴に必要な設定を行います。

接続確認をする

- アンテナ線の接続、miniB-CAS カードの挿入を確認する
- 内容をよくお読みになり [決定] を押す

1 地上デジタルチャンネル設定

- 1 画面の文章をお読みいただき、[決定] を押す
- 2 [^]/[v]/[<]/[>] を押して、お住まいの地方を選択して、[決定] を押す
- 3 [^]/[v]/[<]/[>] を押して、お住まいの都道府県を選択して、[決定] を押す
- 4 [^]/[v]/[<]/[>] を押して、お住まいの地域を選択して、[決定] を押す
- 5 地上デジタルチャンネルの設定内容を確認して、[決定] を押す

2 郵便番号設定

- お住まいの郵便番号 (7 桁) を入力して、[決定] を押す
[10] は「0 (ゼロ)」として使用します。

3 映像メニュー設定

- [^]/[v] を押して、お好みの映像メニューを選び、[決定] を押す

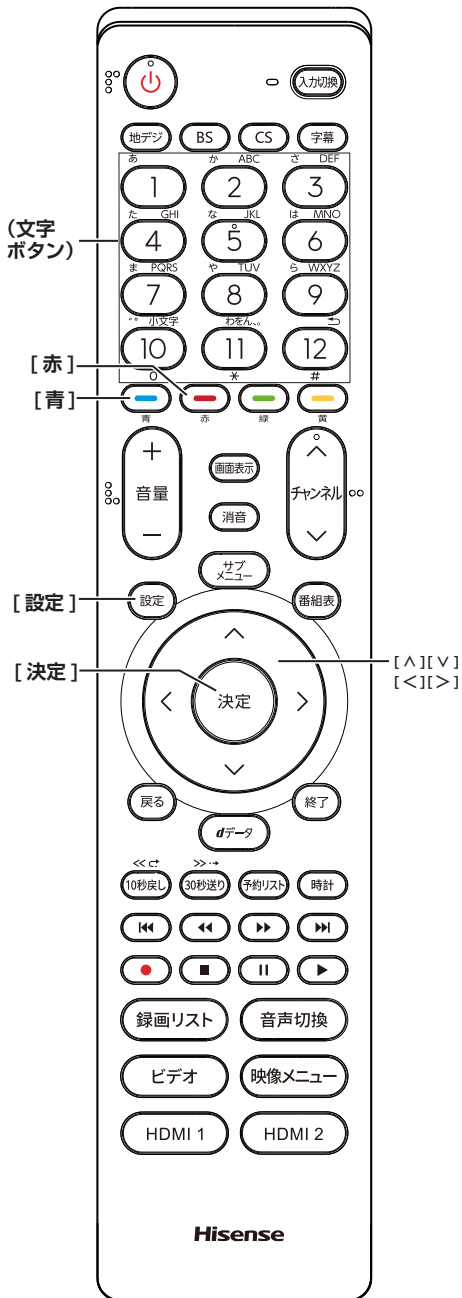
「はじめての設定」をやり直すとき

[設定] を押して、初期設定 → はじめての設定 からやり直すことができます。

お知らせ

- 県外の転居などで「はじめての設定」をやり直したときなど、「データ放送用メモリーの割り当て画面」が表示される場合があります。この場合、メモリーを割り当てたい放送局を 9 つ選択します。(34 ページの「データ放送用メモリーの割り当て画面が表示されたら」)

文字の入力のしかた



- 番組検索のキーワード指定で、新しいキーワードを登録する場面などで文字入力画面が表示されます。
- 携帯電話と同様の操作で文字を入力します。

1 [1]～[12]で文字を入力する

- ・ 文字に続けて[10]を押せば、濁点(・)や半濁点(゜)の入力および小文字変換ができます。
- ・ 同じボタンに割り当てられた文字を続けて入力する場合は、次の文字の前に[>]を押します。
- ・ [青] (文字切換) を押すと、入力文字の種類を変えることができます。
- ・ 文字を挿入するには、挿入する場所を[^]/[v]/[<]/[>]で選んで入力します。
- ・ [赤]を押すと、1文字削除します。続けて押すと文字をまとめて削除することができます。

2 漢字変換しないときは[決定]を押す

- ・ 漢字に変換するときは、[v]を繰り返し押し、希望の漢字が見つかったら[決定]を押す

お知らせ

- 文字入力の場面によっては、使用できる入力文字種が少なかったり、切り換えられなかったりすることがあります。
- 入力文字種が**全角記号**、**半角記号**のときには、入力したい記号を文字入力画面から選びます。
- 確定せずに変換できるのは4文節までです。4文節以上のときは、確定してから残りを変換してください。
- 漢字候補選択時に[戻る]を押せば、その文節を未変換状態に戻すことができます。

故障かな？と思ったら

お問い合わせの前に

まず、以下の点をご確認ください

- アンテナ線や電源コード、その他の接続
- 入力切替の設定

以下の状態は故障ではありません

本機内部からの動作音

電源待機時に番組情報取得などの動作を開始する際、「カチッ」という音が聞こえることがあります。

「ジー」という液晶パネルの駆動音が聞こえることがあります。

ときどき「ピシッ」というきしみ音が出る

周囲との温度差によってキャビネットがわずかに伸縮するために起こる音です。故障ではなく、性能などにおよぼす悪影響もありません。

豪雨や豪雪のときに、映像が乱れたり、まったく映らなくなったりする

衛星放送のアンテナは、比較的天候の影響を受けやすいため、豪雨や豪雪の際は受信感度が落ちることがあります。受信する地域が晴れていても、放映している地域の天候が悪いと、映りが悪くなる場合があります。

使用していないのに温まる

使用していない場合でも、番組情報取得などの動作をしているときなどは、本機の温度が多少上昇します。

テレビが操作できなくなったとき→テレビをリセットする

- 1 電源プラグをコンセントから抜く
- 2 1分以上待つ
- 3 電源プラグをコンセントに差し込んで、電源を入れる

本体の電源ボタンを長押ししてリセットする

- 1 テレビ本体の電源ボタンを4秒以上押し続ける
- 2 本体下面の「電源」の表示ランプが点滅したら、電源ボタンから手を離す

しばらくすると電源が「入」になり、画面に「リセット機能により、再起動しました。」が表示されます。

- テレビが正しく動作しないなどの症状があるときは、取扱説明書・機能操作ガイドの「原因と解決法」及び「エラーメッセージが表示されたとき」から解決法をお調べください。

ライセンスおよび商標などについて



HDMI、High-Definition Multimedia Interface、および HDMI ロゴは、米国およびその他の国における HDMI Licensing Administrator, Inc. の商標または、登録商標です。

- その他記載の会社名および製品名は各社の登録商標または商標です。
- 当取扱説明書の著作権はハイセンスジャパン株式会社に帰属いたします。ハイセンスジャパン株式会社の承諾なく当取扱説明書の内容の全部または一部を複製、改修したり使用したりすることは著作権法上禁止されています。

本機で使われるソフトウェアのライセンス情報

本機に組み込まれたソフトウェアは、複数の独立したソフトウェアコンポーネントで構成され、個々のソフトウェアコンポーネントは、それぞれに当社または第三者の著作権が存在します。

本機は、第三者が規定したエンドユーザーライセンスアグリーメントあるいは著作権通知（以下「EULA」といいます）に基づきフリーソフトウェアとして配布されるソフトウェアコンポーネントを使用しております。

「EULA」の中には、実行形式のソフトウェアコンポーネントを配布する条件として、当該コンポーネントのソースコードの入手を可能にするよう求めているものがあります。当該「EULA」の対象となるソフトウェアコンポーネントに関しては、弊社サポートセンターへお問い合わせください。

また、本機のソフトウェアコンポーネントには、当社自身が開発もしくは作成したソフトウェアも含まれており、これらソフトウェア及びそれに付帯したドキュメント類には、当社の所有権が存在し、著作権法、国際条約条項及び他の準拠法によって保護されています。「EULA」の適用を受けない当社自身が開発もしくは作成したソフトウェアコンポーネントは、ソースコード提供の対象とはなりませんのでご了承ください。

ご購入いただいた本機は、製品として、弊社所定の保証をいたします。

ただし、「EULA」に基づいて配布されるソフトウェアコンポーネントには、著作権者または弊社を含む第三者の保証がないことを前提に、お客様がご自身でご利用になることが認められるものがあります。この場合、当該ソフト

ウェアコンポーネントは無償でお客様に使用許諾されますので、適用法令の範囲内で、当該ソフトウェアコンポーネントの保証は一切ありません。著作権やその他の第三者の権利等については、一切の保証がなく、“as is”（現状）の状態、かつ、明示か黙示であるかを問わず一切の保証をつけず、当該ソフトウェアコンポーネントが提供されます。ここでいう保証とは、市場性や特定の適合性についての黙示の保証も含まれますが、それに限定されるものではありません。当該ソフトウェアコンポーネントの品質や性能に関するすべてのリスクはお客様が負うものとします。また、当該ソフトウェアコンポーネントに欠陥があるとわかった場合、それに伴う一切の派生費用や修理・訂正に要する費用は、当社は一切の責任を負いません。適用法令の定め、又は書面による合意がある場合を除き、著作権者や上記許諾を受けて当該ソフトウェアコンポーネントの変更・再配布を為し得る者は、当該ソフトウェアコンポーネントを使用したこと、又は使用できないことに起因する一切の損害についてなんらの責任も負いません。著作権者や第三者が、そのような損害の発生する可能性について知らされていた場合でも同様です。なお、ここでいう損害には、通常損害、特別損害、偶発損害、間接損害が含まれます（データの消失、又はその正確さの喪失、お客様や第三者が被った損失、他のソフトウェアとのインタフェースの不適合化等も含まれますが、これに限定されるものではありません）。当該ソフトウェアコンポーネントの使用条件や遵守いただくかなければならない事項等の詳細は、各「EULA」をお読みください。

本機に組み込まれた「EULA」の対象となるソフトウェアコンポーネントは、以下のとおりです。これらソフトウェアコンポーネントをお客様自身でご利用いただく場合は、対応する「EULA」をよく読んでから、ご利用くださるようお願いいたします。なお、各「EULA」は当社以外の第三者による規定であるため、原文（英文）を記載します。（原文は機能操作ガイドからお調べください。）

対応ソフトウェアモジュール	
Linux Kernel busybox parted xfsprogs u-boot cryptsetup	Exhibit A
glibc libwebsockets gcc DirectFB libpng-error libgrypt LVM2	Exhibit B
fuse	Exhibit C
OpenSSL	Exhibit D
dtoa	Exhibit E

対応ソフトウェアモジュール	
MALI GPUS LINUX KERNEL DEVICE DRIVERS	Exhibit F
doopt	Exhibit G
libuuid	Exhibit H
libjpeg	Exhibit I
libpng	Exhibit J
libfreetype	Exhibit K
Zlib	Exhibit L
libevent	Exhibit M

データ放送用メモリーの割当画面が表示されたら

「はじめでの設定」の地上デジタルスキャン設定や初期スキャンや再スキャンのときに、データ放送用メモリーの割り当て画面が表示された場合は、以下の手順で設定します。

■ 個人情報とデータ放送メモリーの割り当てについて

地上デジタル放送では、放送局ごとに視聴者個人の情報（たとえば視聴ポイント数など）を利用したサービスが行われる場合があります。本機はその情報を放送局ごとにメモリーに記憶しています。

通常、メモリーは足りていますが、例えば引越をした場合で、以前受信していた放送局の設定が残っていたときなどには、放送局の数が本機のメモリーの数を超過してしまうことがあります。

その場合は、初期スキャン時などに、データ放送用メモリーの割り当て画面が表示されますので、メモリーを割り当てる放送局を設定してください。

メモリーを割り当てなかった放送局については、個人の情報がすべて消去されますのでご注意ください。

放送局にメモリーを割り当てる

- 1 []/[] を押し、メモリーを割り当てたい放送局を選択して、[決定] を押し
「」マークが付きます。もう一度押すと消えます。

お知らせ

- ワンタッチ選局ボタン [1] ~ [12] に設定されている放送局については、メモリーが割り当てられるように自動的に設定されています。設定を取り消すことはできません。
- 2 手順 1 を繰り返し 9 つの指定をする
 - 3 [>] を押す
 - 4 [<]/[>] ではいを選択して、[決定] を押し
指定した放送局について、データ放送用メモリーが割り当てられ、ここでの設定をする前の画面に戻ります。

主な仕様

この製品は日本国内専用です。外国では電源電圧、放送方式が異なるため使用できません。

This TV is designed only for use in Japan and cannot be used in any other countries.

形名		32E30K	40E30K
サイズ		32V 型	40V 型
電源		内蔵 AC100V, 50/60Hz	
消費電力 ^{*1}		55W	67W
待機電力 (リモコンでの電源 OFF 時)		0.5W	
年間消費電力量 ^{*2}		61kWh	67kWh
区分名		a	b
液晶機能	画面寸法	698mm × 392 mm	878 × 485 mm
	バックライト	直下型 LED (D_LED)	
	画素数	1366 × 768	1920 × 1080
	パネルコントラスト比	1200:1	5000:1
	視野角(上下/左右、CR 値 > 10)	178° / 178°	
チューナー	チューナー ^{*3}	地上デジタル × 2 / BS・110 度 CS デジタル × 2	
	受信可能チャンネル	地上デジタル UHF、CATV (CATV パススルー方式 ^{*4})、000-999	
		BS・110 度 CS デジタル放送の各チャンネル	
ビデオ機能	HDMI 入力	480i/480p/720p/1080i/1080p	
パソコン入力フォーマット (HDMI 入力)		640 × 480@60Hz、800 × 600@60Hz、1024 × 768@60Hz、1280 × 768@60Hz、1360 × 768@60Hz、1280 × 1024@60Hz、1920 × 1080@60Hz	
スピーカー	構成	内蔵ステレオ フルレンジスピーカー	
	脱着	不可	
音声機能	出力	6W × 2	7W × 2
	音声多重	あり	
入出力端子	アンテナ端子	地上デジタル / BS・110 度 CS デジタルアンテナ入力 各 1	
	映像入力	コンポジットビデオ入力端子 (RCA ピン) × 1 ^{*5}	
		HDMI 入力端子 × 2 (CEC 機能対応)	
	音声入力	ステレオ入力端子 (ステレオ RCA ピン) × 1 ^{*5}	
		HDMI 入力端子 × 2 (映像入力と一体)	
		光デジタル音声出力端子 × 1 ^{*6}	
		ステレオヘッドホン出力端子 (ステレオミニジャック) × 1	
外付け USB ハードディスク接続	USB2.0 端子 × 1		

形名		32E30K	40E30K
デジタル放送関連		EPG(番組表、当日含めて8日分)/データ放送/字幕放送	
		双方向(データ放送) サービス・LAN (RJ-45 端子) × 1	
		miniB-CAS カードスロット × 1	
録画/再生機能関連(外付けUSBハードディスク接続時)		録画機能(現在番組録画/番組指定録画/日時指定録画)	
		再生機能(再生/早送り再生/早戻し再生/追っかけ再生/リピート再生(リピート/1コンテンツリピート))	
		編集機能(マイフォルダ管理/連ドラグループ名の変更)	
赤外線リモコン		専用リモコン EN3E40H	
チルト&スイーベル機能		なし	
壁掛け対応		あり [VESA: 100*200]	
付属品		「付属品を確認する」(1ページ)をご覧ください。	
使用環境・ 保管環境	温度	使用環境:5℃~35℃ 保管環境:-20℃~60℃	
	湿度(結露なきこと)	使用環境:20%~65% 保管環境:10%~80%	
本体寸法 (幅×高さ×奥行)	スタンド含む	721 mm × 472 mm × 159 mm	893 mm × 559 mm × 182 mm
	スタンド含まない	721 mm × 427 mm × 73 mm	893 mm × 510 mm × 86 mm
本体重量	スタンド含む	3.9 kg	5.5 kg
	スタンド含まない	3.8 kg	5.4 kg

*1 定格消費電力は、電気用品安全法に基づき算出しています。

*2 年間消費電力量は、省エネ法に基づいて、工場出荷時の画質設定を標準設定として測定しています。

*3 地上/BS/110度CSデジタル放送で番組を視聴中、放送の裏番組を録画することができません。

*4 同一周波数パススルー方式(UHF)、周波数変換パススルー方式(VHF)の両方に対応します。

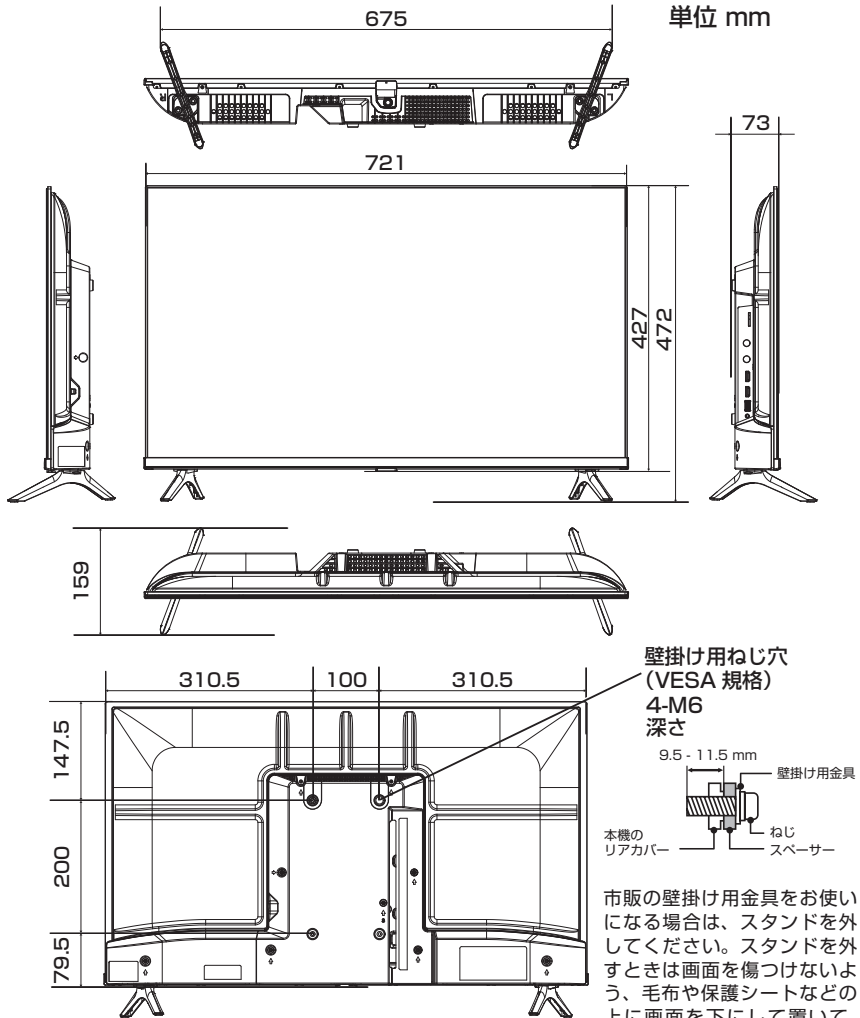
*5 付属のビデオ入力用変換アダプターを使い、ミニジャックからRCA入力端子に変換します。

*6 地上デジタル/BS・110度CSデジタル/HDMIのみ対応します。

仕様の一部を予告無く変更することがありますのでご了承ください。

主な仕様 (つづき)

32E30K 展開図

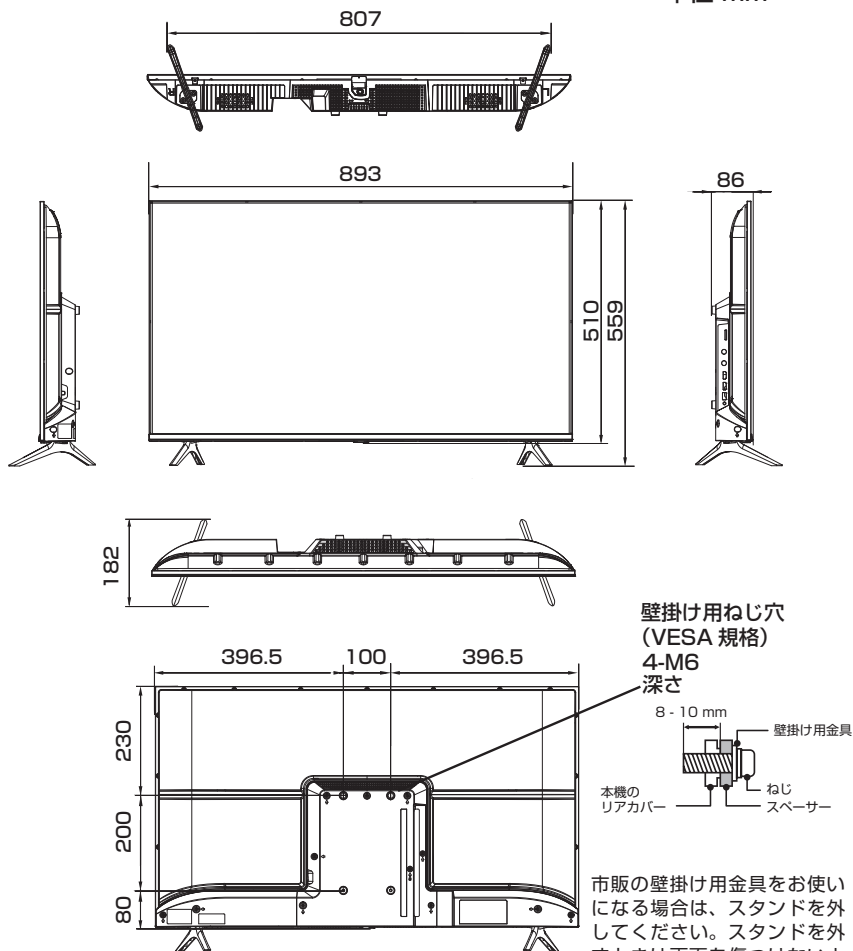


市販の壁掛け用金具をお使いになる場合は、スタンドを外してください。スタンドを外すときは画面を傷つけないよう、毛布や保護シートなどの上に画面を下にして置いて、スタンド用のねじを外してください。

当取扱説明書の著作権はハイセンスジャパン株式会社に帰属いたします。ハイセンスジャパン株式会社の承諾なく当取扱説明書の内容の全部または一部を複製、改修したり使用したりすることは著作権法上禁止されています。

40E30K 展開図

単位 mm



市販の壁掛け用金具をお使いになる場合は、スタンドを外してください。スタンドを外すときは画面を傷つけないよう、毛布や保護シートなどの上に画面を下にして置いて、スタンド用のねじを外してください。

当取扱説明書の著作権はハイセンスジャパン株式会社に帰属いたします。ハイセンスジャパン株式会社の承諾なく当取扱説明書の内容の全部または一部を複製、改修したり使用したりすることは著作権法上禁止されています。

保証とアフターサービス

本機は日本国内専用です。電源電圧や放送規格の異なる海外ではご利用いただけません。

This TV is designed only for use in Japan and cannot be used in any other countries.

保証書について

本機には保証書が添付されていますので、お買い上げの際、販売店よりお受け取りください。所定事項の記入および記載内容をよくお読みいただき、大切に保存してください。

本体の保証期間は、お買い上げの日から3年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

「困ったときには」、または機能操作ガイドの「症状に合わせて解決法を調べる」をご参照いただき、故障かどうかお調べください。

それでも具合が悪いときは

弊社サポートセンターへお問い合わせください。

● 電話によるお問い合わせ

受付時間：365日 9:00～18:00

フリーダイヤル：0120-835-111（土日祝は受付のみ）

ナビダイヤル：0570-033-677（有料）

※ フリーダイヤル・ナビダイヤルがご利用いただけない場合：050-2018-6700（有料）

● FAXによるお問い合わせ

FAX 番号：0570-061-117（有料）

※ お客様のご連絡先、型番、購入年月日、お買い上げ店、故障状況を詳しく記載してください。

● メールによるお問い合わせ

電子メールでのお問い合わせは <https://www.hisense.co.jp/contact/> のお問い合わせのページで受け付けています。お客様のご連絡先、型番、ご購入年月日、お買い上げ店、故障状況を詳しく記載してください。

※ サポート受付に関しては変更させていただく場合がございます。

弊社ホームページでサポート時間などをご確認の上、ご利用されるようお願いいたします。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

本機の不具合・修理など、何らかの原因で、本機のメモリーに保存されたデータが破損・消滅した場合など、いかなる場合においても記録内容の補償およびそれに付随するあらゆる損害について、当社は責任を負いません。また、いかなる場合においても、当社にて記録内容の修復は致しません。あらかじめご了承ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご希望により有料で修理させていただきます。

補修用性能部品の保有期間 8年

この商品の補修用性能部品は、製造元が製造打ち切り後8年保有しています。

※補修用性能部品とは、その商品の機能を維持するために必要な部品です。

ご相談になるときは以下のことをお知らせください。

形名	
製造番号	
使用状況や故障の状態	できるだけ詳しく ※映像の調子が悪い状況を伝えにくい場合は、メールによるお問い合わせを利用して症状写真や動画を添付されることをお勧めします。
購入年月日	年 月 日
お買い上げ店	

愛情点検



長年ご使用のテレビの点検を！

このような症状はありませんか？

- 電源スイッチを入れても映像や音が出ない。
- 映像がときどき消えることがある。
- 変なにおいがしたり、煙が出たりする。
- 電源スイッチを切っても、映像や音が消えない。
- 内部に水や異物が入った。

異常があればご使用中止

事故防止のため、電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、必ずお買い上げの販売店に点検・修理をご依頼ください。

Hisense[®] ハイセンス

サポートセンター

フリーダイヤル：0120-835-111

ナビダイヤル：0570-033-677(有料)

受付時間：365日 9:00～18:00

FAX：0570-061-117(有料)

メールフォーム：<https://www.hisense.co.jp/contact/>

ハイセンスジャパン株式会社

〒212-0058 神奈川県川崎市幸区鹿島田1丁目1番2号

<https://www.hisense.co.jp>

本書に記載されている内容は、予告なく変更されることがあります。

あらかじめご了承ください。

本書の内容を無断で転載、コピーすることは禁止されております。

© Hisense Japan Corporation